

平成 29 年 2 月 24 日

平成 28 年度第 2 回 IR 初級人材研修会（パイロット事業）について

茨城大学（大学教育再生加速プログラム事業）
九州大学基幹教育院 次世代型大学教育開発センター
大学評価コンソーシアム

1. はじめに

教育の質保証を行う上で、必要な情報の収集、分析、および提供は不可欠な業務となります。それを支援する機能として Institutional Research（IR）があります。我が国では、IR オフィスの設置や、設置を計画する大学が急増しておりますが、それら IR 人材育成のための研修の機会は十分ではありません。

茨城大学では、卒業時の質保証のために内部質保証システムの構築を行い運用する実践的取り組みを進めており、平成 28 年度の大学教育再生加速プログラム（テーマⅤ卒業時の質保証）に採択されました。この事業の中で内部質保証システムへの IR による効率的支援の実践手法や事例の提供を計画しています。また、九州大学では教育関係共同利用拠点（次世代型大学教育開発拠点）の指定を受け、内部質保証システムの構築、運営の支援を行う IR 人材の育成について研修プログラムの開発と実施を行っています。これらの 2 大学では、評価担当者・IR 担当者の全国組織である大学評価コンソーシアムの協力を得て、IR 初級人材研修プログラムの開発を進めており、この度、大学教育再生加速プログラム及び次世代型大学教育開発拠点の活動の一環として、パイロット版の研修会を提供させていただくことになりました。この研修会を通して、参加者のみなさまからはプログラム向上のための様々なフィードバックをいただくことを計画しております。

これまでに、大学評価コンソーシアムにおいて、評価・IR 人材の必要な知識・能力に関するルーブリック（要素別能力段階表：7 ページ参照）を整理しております。第 2 回目である今回はルーブリックの能力要素「収集」のうち「初級レベル」の内容の知識・能力のある者を対象としたパイロット研修「初級 [調査設計・分析] 編」（九州大学が担当）を行います。また、「初級レベル」以前の方（今後、IR 業務を担当される方など）に向けた IR 業務全般を理解するための入門 [IR 立上げ期] 編も試行実施させていただきます（茨城大学が担当）。

次年度からの本格実施に向けての試行事業ではあるものの、多くの方にご参加いただき教育の質保証における必要不可欠な人材育成にご協力いただければ、と思います。

2. 主催

茨城大学、九州大学、大学評価コンソーシアム（50 音順）

3. 日時・会場

平成 29 年 2 月 28 日（火）9：30－16：25

JR 博多シティ会議室 アミュプラザ 10F 会議室 C および D（福岡市博多区博多駅中央街 1-1）

<https://www.jrhakatacity.com/communicationspace/#Access>

※阪急百貨店側（博多口）のエレベーターでお越しください。

4. 開講コースと対象者

1) 初級〔調査設計・分析〕編

- ・大学等で IR 部署等に所属して業務を行っており、IR に関するデータ分析業務において、評価・IR 人材ルーブリックの「初級」に至りつつある者（概ね半年から 1 年程度の業務経験がある者）
- ・調査の設計をどのように行い、どのような分析を行えばよいのか、という IR の基本となる業務について、特定の事例に基づいたワークショップによって、考え方の整理を行います。
- ・第 1 回初級人材研修会（H28.11 東京）との重複はほとんどありません。第 1 回で初級編を受講された方でも、入門編を受講された方でも、今回初めて参加される方、どなたでも受講いただける内容になっています。

2) 入門〔IR 立上げ期〕編

- ・IR オフィス立上げ期の課題解決のヒントをお持ち帰りいただくことを目的に、事例や IR 担当者の経験からの知見をコンパクトに提供します。
- ・第 1 回（H28.11 東京）と講義部分の重複はあまりありません（事例校も別です）。事前質問への回答については若干の重複が発生すると思います。（希望する方がいらっしゃれば）第 1 回に入門編を受講された方でも受講いただけます。
- ・対象者は、これから IR 業務を担当する予定の方（業務経験がない方）を含め、IR 業務を担当している方で初級レベルに達していない方

※ 今回はパイロット版のため、これらのレベルは超えているが知識・技能を再整理したい方や、フィードバックにご協力いただける中級、上級の方も受講いただけます。

※ これらの 2 コースは同時平行開催のため、どちらか 1 コースにのみ参加いただけます。

5. 定員と受講料

初級編、入門編それぞれ 25 名とします。受講料は徴収しません（AP 事業、拠点事業経費による）。

6. 研修会の内容とスタッフ

6. 1. 初級〔調査設計・分析〕編（主担当：九州大学 小湊卓夫）

目的：本研修では、IR 初級者（活動経験が 1 年程度）が直面する課題に関し、重要と思われる知識や観点を整理する中で、課題解決に向けたきっかけを得ることを目的とします。

進め方：最初に調査設計に関する講義（リサーチ・クエスチョン、リサーチ・デザイン、分析事例など）を行い、その後、質疑応答をします。午後の演習では調査をデザインし、データを分析し情報に変換していく一連のプロセスについて思考実験型グループワーク（パソコンなどでの具体的操作は行わず、データの解釈や分析手順について議論していく形式）で考えていきます。

○ ルーブリックにおける目標：

知識・能力等		初級水準
能力等／段階 の目安	評価	評価（収集/分析）の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。

活動の設計	IR	収集/分析の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。
-------	----	---

○ タイムテーブル

時限	科目	担当	内容
① 9:30 – 10:20	講義1：概論	小湊	IR 担当者がどういった観点から活動を行い、依頼に応じて調査設計、分析を行うのかを概観する。
② 10:35 – 11:35	講義2：調査 設計・分析	浅野・大 野・藤 井・白石	調査設計・分析作業について、IR担当者としての具体的な実務を、4つのケース（1ケース15分程度）から解説する。
③ 11:35 – 12:20	質疑応答		
④ 13:30 – 16:20	演習：調査の 設計・分析		特定の事例（ケース）に基づいた、調査設計と分析に関するワークショップ

※アンケート記入 16:20-16:25

○ 演習の流れ

1) 課題を理解する

◇参加者のみなさんは、架空の大学のIRオフィスのスタッフです。

- ・学長からの依頼事項を検討し調査のデザインを行わなければなりません。そこでどのようなレポートを作成するのか検討します（個人ワーク）。
- ・考えた問いが依頼者の要求を満たすものなのかどうかを班のメンバーと検討・検証します（グループワーク）。

2) 収集・分析計画を立てる

◇必要なデータの収集と分析に関する計画を立てます。

- ・【収集】仮に自大学だったらどのような障害が発生しうるのか。そのためには事前にどうしておけばよいのかを考えます（個人ワーク）。
- ・【分析】集まったデータをどのように分析すればよいのかを考えます（個人ワーク）。
- ・班で、収集・分析計画について検討・検証します（グループワーク）。

◇余裕があれば、サーベイ・デザインについても簡単に検討を行います。

3) 分析結果を吟味し報告内容をまとめる

◇架空の大学のデータ分析結果（グラフおよび表）を提示しますので、実際に解釈を行い、報告する内容を検討します。

- ・データ分析結果を検討し、現状がどうなっていたのかを把握します（個人ワーク）。
- ・個人での解釈作業の結果を報告し合い、明らかになったことを把握します（グループワーク）。

4) 調査設計・分析の検証

◇立案した調査設計に問題はなかったか、その手順や分析結果等をグループで検証し、今後、

自大学に帰って同じような作業を行う際のポイントを各班でまとめます。

◇全体でそれらのポイントについて共有します。

○ 講師、進行担当スタッフ：

小湊卓夫（九州大学 基幹教育院 准教授）

浅野茂（山形大学 学術研究院（企画部）教授）

大野賢一（鳥取大学 学長室 IR セクション 学長特別補佐（IR 担当））

岡部康成（帯広畜産大学 大学情報分析室 特任准教授）

白石哲也（清泉女子大学 情報環境センター（IR））

関隆宏（新潟大学 経営戦略本部評価センター [IR 推進室兼務]）

藤井都百（名古屋大学 評価企画室 講師）

藤原宏司（山形大学 学術研究院（EM 部）教授）ほか

6. 2. 入門 [IR 立上げ期] 編（主担当：茨城大学 畷田敏行）

・入門編では、これから IR 業務を担当するにあたり準備を進めている過程で出てきた疑問や、業務を始めてみて出てきた課題などについて事前に質問・コメントを受け付け、それらをもとに内容を構成する「④⑤IR 入門のための Q&A」が主要なコンテンツとなります。

○ タイムテーブル

時限	科目	担当	内容
① 9:30 - 10:20	講義：IR オフィスの立上げ期に考えるべきこと	畷田	IR の機能と求められる役割について、IR オフィスの立ち上げ期の事例と課題から概説します。（講義後に質問感想票を記入いただきます。いただいた質問感想の全てに質疑応答・解説を行います。） ※事前質問をもとに内容を調整します。
② 10:30 - 11:20	講義：京都光華女子大学の IR 実践事例	橋本	IR オフィスの立ち上げ期での留意点などを中心に、さしあたって行ったこと／行うべきことなどについて事例を中心に報告します。（講義後に質問感想票を記入いただきます。いただいた質問感想の全てに質疑応答・解説を行います。） ※事前質問をもとに内容を調整します。
③ 11:30 - 12:20	講義：佐賀大学の IR 実践事例	末次	
④ 13:30 - 14:20 ⑤ 14:30 - 15:20	講義：IR 入門のための Q&A	講師： スタッフ全員	事前質問をもとに Q&A を構成し、その解説を行いません。
⑥ 15:30 - 16:20	演習：IR 入門のためのグループ討論	講師： スタッフ全員	事前質問の内容をもとにテーマを設定し参加者が 4 名程度のグループになって討論 4 名で討論（情報交換）を行い、本日の講義内容について整理しつつ、他大学の状況などについて意見交換を行う。

※アンケート記入 16:20-16:25

○これまでの類似勉強会等での質疑応答（各ページに掲載してあります）

- ・入門編参加者の方は、申し込み時に事前質問の入力をお願いしています。過去の勉強会などでの質疑応答を公開しますので、参考にしてください。
- ・以前質問があったものであっても、回答がよく理解できなれば、同じ内容のご質問をしていただいても、(まったく)問題ありません(回答ライブラリが厚くなっていきますので)。
- ・立ち上げ期ではないご質問でもかまいません。また、「今更訊いていいのだろうか?」というようなご質問でも大丈夫です。

H28.11.29 平成 28 年度第 1 回 IR 初級人材研修会（パイロット事業）[入門編]（於：CIC 東京）

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irbs20161129b>

H29.1.20 継続的改善のための IR/IE セミナー2017a（於：明治大学・駿河台）

第3セッション「立ち上げ期にある IR オフィスの課題」

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=iries20170120-3>

h28.8.27 大学評価担当者集会 2015（於：立命館大学・大阪いばらき）

イベント2「はじめて学ぶ IR—これまでのまとめ—」

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=acc20150827-p2>

○ 講師、事前質問回答、進行担当スタッフ

畷田敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門（IE オフィス） 准教授）

末次剛健志（佐賀大学 総務部 企画評価課 係長（IR 主担当））

橋本智也（京都光華女子大学 EM・IR 部）

土橋慶章（神戸大学 戦略情報室, 評価室）

藤原将人（立命館大学 教学部 学事課 課長補佐）

山本鉦（九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 助教）

山本幸一（明治大学 教学企画部 評価情報事務室 副参事）

7. 申し込み方法と今後のスケジュール

(省略)

8. 参加者へのお願い

- ・パイロット事業のため、研修会の内容について詳細なアンケートを実施する予定です。ご協力よろしくお願いします。
- ・入門編にご参加の方は、申し込み時に課題と質問事項をご入力ください。
- ・テキストは原則的に電子配布とし、当日の配布は行いません。予習時間を踏まえ、2月24日(金)15時(予定)には web サイト(7. に記載)にアップします。紙媒体のほうが受講しやすい方は、印刷してご持参ください。

9. 開催について

このセミナーの開催には、以下の経費を用いております。記して謝意を述べさせていただきます。
平成 28 年度大学教育再生加速プログラム (AP)「高大接続改革推進事業」テーマ 5 卒業時における質保証の取組の強化 (取組実施校：茨城大学)



教育関係共同利用拠点 次世代型大学教育開発拠点 (九州大学 基幹教育院 次世代型教育開発センター)



10. 問い合わせ先

[初級編に関すること]

小湊 卓夫

九州大学 基幹教育院

kominato@artsci.kyushu-u.ac.jp

092-802-5835

[受付・入門編に関すること]

寫田 敏行

茨城大学 全学教育機構 (AP 事業室)

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

029-228-8252

※申し込み後のキャンセルは、申し込みシステム (7. に記載) から行ってください。申し込み締め切り以降は、小湊、寫田の両名にメールでご連絡ください。

11. その他

- ・今回までのパイロット版の実施をふまえ、平成 29 年度には本実施を予定しています。

表. 大学評価コンソーシアムが提案した評価・IR 担当者に必要な知識・スキル

能力等/段階の目安		初級	中級	上級
活動の設計	評価	評価(収集/分析)の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。	評価(収集/分析)の目的を明確にし、具体的な活動を概ね設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順についてある程度設計することができる。	評価(収集/分析)の目的を明確にし、具体的な活動を設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順について設計することができる。適切な状況把握のための指標の選定ができる。
	IR	収集/分析の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。	依頼内容から収集/分析の目的を明確にし、具体的な活動を概ね設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順についてある程度設計することができる。	依頼内容から収集/分析の目的を明確にし、具体的な活動を設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順について設計することができる。適切な状況把握のための指標の選定ができる。
収集	所在把握と入手	誰に依頼すれば、もしくはDBのどこにアクセスすれば必要なデータが得られるのか概ね把握しており、それらを手に入れることができる。	誰に依頼すれば、もしくはDBのどこにアクセスすれば必要なデータが得られるのか把握しており、それらを手に入れることができる。	既存のデータがない場合に新たな調査を実施したり、定義が曖昧な場合、それらを調整することができる。
	整理	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる。	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる。各データの定義や入手経緯等もまとめておくことができる。	入手した各種データを組み合わせる形で、他部署も使いやすい形でデータを整理することができる。データマネジメント組織としての活動を推進できる。
分析	文章とりまとめ	叙述資料をとりまとめて、整理することができる。	叙述資料の内容を精査し、校正することができる。	叙述資料について、目的に応じて適切な量の文章にまとめることができる。
	数量データ解析	数量的なデータを集計したり、グラフを作成することができる。	複数の数量的データを組み合わせる傾向や特徴を掴むなどの操作ができる。その上で、必要な表やグラフを作成することができる。	基礎的な統計学の知識を有し、データの持つ意味について客観的な考察ができる。
	解釈	傾向や現状を概ね説明することができる。	複数のデータから自大学の置かれた状況を概ね解釈することが出来る。	複数のデータから自大学の置かれた状況を解釈し、依頼者に分かりやすいストーリーを構成することができる。
活用支援(レポーティング)		指示を受けた表やグラフや報告書を提供できる。	依頼者の期待に応えた報告書の作成や、口頭報告を行うことができる。	依頼者の期待に加え、政策的な流れ、学内での経緯などを踏まえた報告書の作成や、口頭報告を行うことができる。継続的改善を見越した示唆をさりげなく盛り込むことができる。